

新型インフルエンザ 情報及び対策

 **ADEKA** クリーンエイド株式会社

WHO パンデミックフェーズ5を宣言

- ・メキシコを発端とした豚インフルエンザの変異による人から人への感染が確認され、世界的な流行になったことに対し、WHOはパンデミックフェーズを5に引き上げました。

[WHO 新型インフルエンザに対する警戒レベル]

パンデミック間期	ヒト感染のリスクは低い	1
動物間に新しい亜型ウイルスが存在するがヒト感染はない	ヒト感染のリスクはより高い	2
パンデミックアラート期 新しい亜型ウイルスによるヒト感染発生	ヒト-ヒト感染は無いが、または極めて限定されている	3
	ヒト-ヒト感染が増加していることの証拠がある	4
	かなりの数のヒト-ヒト感染があることの証拠がある	5
パンデミック期	効率よく持続したヒト-ヒト感染が確立	6

- ・政府は国内における感染の確認を受け、自治体や関連団体と連携し対策を打出しております。

WHO パンデミックフェーズ5を宣言

・国内においても、政府は国内における感染の確認を受け、自治体や関連団体と連携し次の7項目を対策として打出しています。

1. 国民への情報提供

・情報としては、ウイルスの感染力や病原性、検査方法、感染防止策、治療方法など

2. 新型インフルエンザに対応する医療体制の早急な整備

・発熱外来の整備、抗インフルエンザウイルス薬の流通確保など

3. 感染者や濃厚接触者の方々の活動した地域における対応

・感染状況の調査、国民の皆様への要請

4. 水際対策と在外邦人への支援

5. ワクチンの開発

6. ライフライン確保のための確認や注意

7. 消費者への適切な行動喚起と社会混乱に乗じた各種犯罪の取り締まりなど

新型インフルエンザ感染地域の予防策

新型インフルエンザの感染が確認された地域では、政府は次の対応を依頼しています。

1. 外出とマスク着用

外出に当たっては、人ごみを避けてください。避けられないときは、マスクの着用が勧められます。帰宅時はもちろん、頻繁に手を洗い、うがいを心がけ、咳やくしゃみのでるときは「咳エチケット」を守りましょう。

2. 通勤・通学について

感染してしまう機会を減らすため、事業者や学校設置者には時差通勤・時差通学や自転車通勤・通学などを容認するようお願いしています。

3. 集会、スポーツ大会などの開催

感染の機会を減らす観点から、まず開催の必要性を改めて検討してください。開催する時には、主催者は感染が拡大しないよう、できる限りの方法をとってください。

4. 学校・保育施設などの臨時休業

学校・保育施設などに通う生徒や児童の中に患者が見つかった場合は、その地域の学校等については臨時休業することを原則としています。臨時休業の終了時期については、新型インフルエンザの発生状況に応じて、検討します。

5. 事業の継続

事業者は、事業運営における感染の機会を減らすよう、工夫を検討してください。

新型インフルエンザとは？

新型インフルエンザとは？

- ・ 動物のインフルエンザウイルスがヒトに感染し、ヒトの体内で増えることができるように変化し、ヒトからヒトへと効率よく感染するようになったもので、このウイルスが感染して起こる疾患をいう。
- ・ 過去の例としては、1918年に「スペインインフルエンザ」、1957年に「アジアインフルエンザ」、1968年に「香港インフルエンザ」、1977年に「ソ連インフルエンザ」が流行し、「スペインインフルエンザ」においては、世界の人口の25～30%が罹患し、4000万人が死亡したと類型されており、日本でも2300万人が感染し、39万人が死亡したと記録されています。
- ・ 新型インフルエンザの大流行が起こると多くの人々が感染し、医療機関は患者であふれかえり、国民生活や社会機能の維持に必要な人材の確保が困難になるなど、様々な問題が生じる可能性があります。
- ・ 新型インフルエンザは10～40年の周期で流行してきましたが、次の新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスで殆どの人々は免疫を持っていませんので、これは容易に人から人へ感染して広がり、急速な世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性があります。
- ・ 今回の新型インフルエンザは早期の診断と治療によって、多くの方が回復していますが、インフルエンザウイルスは型を変えながら（弱毒性から強毒性の可能性も）、今後も世界的に広がる可能性があります。

豚インフルエンザとは？

豚インフルエンザとは？

- ・ブタインフルエンザは、A型インフルエンザによって起こるブタの呼吸器疾患です。豚においては、定期的に流行を引き起こしています。現時点では、H1N1、H1N2、H3N1、H3N2の4種類の亜型が豚から分離されています。ただし、最近分離されているウイルスの亜型は殆どがH1N1となっています。**現在流行している新型インフルエンザも豚インフルエンザウイルスA / H1N1型である。**
- ・ブタインフルエンザは、豚肉や豚肉の加工品を食べることによって経口感染するものではありません。インフルエンザは食品を介しては感染しません。

鳥インフルエンザとは？

- ・原因物質(病原体)：(鳥)インフルエンザウイルスA、H5N1型、オルソミクソウイルス科の一種。インフルエンザウイルスには、A、B、C型が存在し、ヒトに感染するのはA型とB型です。特にA型ウイルスはヒトを含む哺乳類や鳥類に広く分布し、中でも水きん、特にカモが起源と考えられています。
- ・感染：
このウイルスは感染した鳥の糞や目鼻の分泌物を介して排出され、結膜や鼻孔・気管を通じて別の鳥に感染し、このウイルスは二次汚染を繰り返した結果として、食料や水、土壌からも検出されています。
- ・持続性：
このウイルスは感染した鳥の細胞組織や糞の中で長期間生存することができます。水中では、22度で4日間、0度では30日以上存続することができます。

新型インフルエンザ対策

- 事業者・職場における対策 -

「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン(改定案)」より抜粋)

個人や事業者が実施できる具体的な感染予防策

新型インフルエンザの感染予防策は、一般の人々が普段の生活の中で実施できるものが多い。有効と考えられる感染予防策としては、以下があげられる。

・ ヒトとの距離の保持

最も重要な感染予防策は、ヒトとの距離を保持することである。特に感染者から適切な距離を保つことによって、感染リスクを大幅に低下させることができる。逆に、ヒトが社会行動を行うことで、感染リスクが高まるといえる。

・ 手指衛生

手指対策は感染対策の基本であり、外出からの帰宅後、不特定多数の者が触るような場所を触れた後、頻回に手指衛生を実施すべきである。また、環境整備や発病者がいた場所等の消毒をした際、手袋を外した後に流水・石鹸による手洗い又は速乾性擦式消毒用アルコール製剤による手指衛生を実施する。

・ 咳エチケット

風邪などで咳やくしゃみが出る時に、他人にうつさないためのエチケットである。

・ 職場の清掃・消毒

・ 通常のインフルエンザワクチンの接種

新型インフルエンザ対策

- 手指衛生 -

「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン(改定案)」より抜粋

手指対策は感染対策の基本であり、外出からの帰宅後、不特定多数の者が触るような場所を触れた後、頻回に手指衛生を実施すべきである。また、環境整備や発病者がいた場所等の消毒をした際、手袋を外した後に流水・石鹼による手洗い又は速乾性擦式消毒用アルコール製剤による手指衛生を実施する。

《目的》

本人および周囲への接触感染の予防

《効果》

水と石鹼による手洗いは、付着したウイルスを除去し、感染リスクを下げる。また、60～80%のアルコール製剤に触れることによって、ウイルスは死滅する。

《方法》

石鹼を用いて最低15秒以上洗うことが望ましい。洗った後は水分を十分に拭き取ることが重要である。速乾性擦式消毒用アルコール製剤(アルコールが60～80%程度含まれている薬剤)はすぐに乾くため、タオルや水も必要ではなく、簡便に使用できる。

新型インフルエンザ対策

- 職場の清掃・消毒 -

「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン(改定案)」より抜粋)

《目的》

周囲への接触感染の防止

《効果》

感染者が咳やくしゃみを手で抑えた後や鼻水を手でぬぐった後に、机、ドアノブ、スイッチなどを触れると、その場所にウイルスが付着する。ウイルスの種類や状態にもよるが、痰に含まれるウイルスは、その場所である程度感染力を保ち続けると考えられる。このため、清掃や消毒を行うことにより、ウイルスを除去することができる。

《方法》

通常のコleaningに加えて、水と洗剤を用いて、特に机、ドアノブ、スイッチ、階段の手すり、テーブル、イス、エレベーターの押しボタン、トイレの流水レバー、便座など人がよく触れるところを拭き取り清掃する。頻度については、どの程度、感染者が触れる可能性があるかによって検討するが、最低1日1回は行うことが望ましい。消毒や清掃を行った時間を記し、掲示する。

従業員が発症し、その直前に職場で勤務していた場合には、当該従業員の机の周辺や触れた場所などの消毒剤による拭き取り清掃を行う。その際作業者は、必要に応じて市販の不織布製マスクや手袋を着用して消毒を行う。作業後は、流水・石鹼又は速乾性擦式消毒用アルコール製剤により手を洗う。

新型インフルエンザ対策

- 職場の清掃・消毒 -

「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン(改定案)」より抜粋)

・床の清掃

患者が滞在した場所の床については、有機物にくるまれたウイルスの除去を行うために、濡れたモップ、雑巾による拭き取り清掃を行う。明らかに患者由来の体液(血液、尿、便、喀痰、唾液等)が存在している箇所については、消毒を行う。

・患者が接触した箇所の清掃

患者が頻回に接触したと考えられる箇所(ドアノブ、トイレの便座、スイッチ、階段の手すり、テーブル、椅子、ベット柵等)についても、濡れたタオルや雑巾で拭き取り清掃を行う。洗浄剤を使用するとより効果的である。

また、患者が使用していた物品は、適宜、拭き取り清掃を行う。

・壁、天井の清掃

患者由来の体液が明らかに付着していない場合、清掃の必要はない。患者由来の体液が付着している場合、当該箇所を広めに書毒する。

・食器・衣類・リネン

食器・衣類・リネンについては、通常通りに洗浄・清掃を行う。衣類やリネンに患者由来の液体が付着しており、洗濯等が不可能である場合は、当該箇所をアルコール製剤などを用いて消毒する。

衛生関連商品

手指用殺菌・洗浄剤

セーフメイトCS

無リン 医薬部外品



- ・手指の洗浄と殺菌が一度でできます。
- ・塩化ベンザルコニウムを配合した中性タイプ
- ・無香料タイプ
- ・原液使用
- ・液体 5 Kg × 2

セーフメイトEX

薬用石けん 無リン 医薬部外品



- ・殺菌力に優れ、1液で確実な手指の洗浄と殺菌が可能
- ・アルコール配合
- ・無香料タイプ
- ・原液使用
- ・液体 5 L × 1

衛生関連商品

アルコール製剤

アデチール750、5000

食品添加物 無リン



- ・エタノールと食品添加物により、食品の品質保持保存に効果があります。
- ・食品、食材の制菌、防腐
- ・調理器具、機械、冷蔵庫、まな板、包丁などの除菌
- ・原液使用
- ・荷姿 750ml × 12、5L × 3

塩素系除菌剤

テルロンブリーチ1.5、5

食品添加物 無リン



- ・次亜塩素酸ナトリウムが成分の食品添加物です。
- ・水でうすめるだけで、簡単に使用できます。
- ・次亜塩素酸ナトリウム6%
- ・100～500倍(120～600ppm)
- ・荷姿 1.5L × 8、5Kg × 3

衛生関連商品

除菌・除ウイルス剤



	セーフメイトワイロック
用途	施設環境の除菌
成分	陽イオン系界面活性剤、アルカリ剤
標準仕様濃度	原液
荷姿	500ml × 12本 2Kgポリ容器 × 4本

	セーフメイトワイロックシート
用途	環境・器具の清拭・除菌
成分	陽イオン系界面活性剤、アルカリ剤
含浸薬剤	セーフメイトワイロック(液体)
荷姿	60枚入り × 12個

優れた抗菌持続性

抗菌持続性に優れており、長時間にわたり対象物の微生物コントロールが可能です。

様々な材質に使用可能

ステンレス、プラスチックをはじめ、次亜塩素酸ナトリウムを使用できないカーペット、色柄物の繊維、軽金属類などにも使用できます。

幅広い菌・ウイルスの除去に効果

ワイロックの基本処方、米国環境保護庁(EPA)により、多くの菌・ウイルスの除去効果が認められています。